

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2025年12月)

■ 12月のパフォーマンス

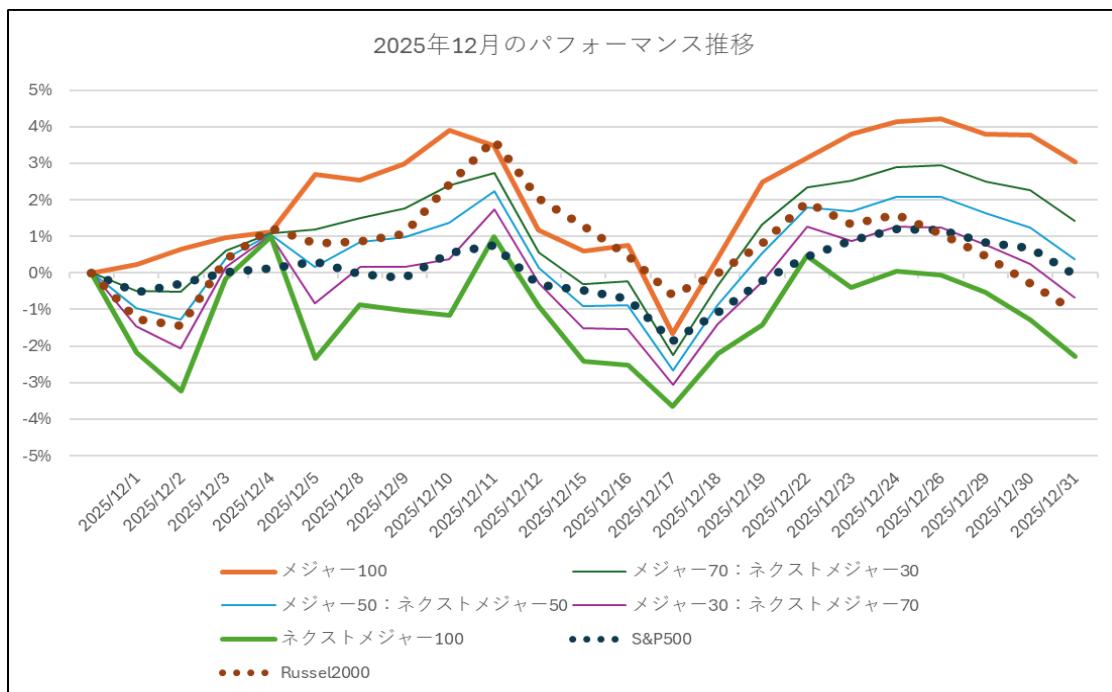
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+3.03%
ネクストメジャー100	△2.27%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	△0.05%
Russel2000	△0.74%
NY ダウ	+0.73%
NASDAQ	△0.53%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	3.03%	S&P500	-0.05%	3.08%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	1.44%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	-0.26%	1.69%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	0.38%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	-0.40%	0.77%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	-0.68%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	-0.53%	-0.15%
5位	ネクストメジャー100	-2.27%	Russel2000	-0.74%	-1.53%
	全戦略平均	0.38%			0.77%

※各指標のベンチマークについて

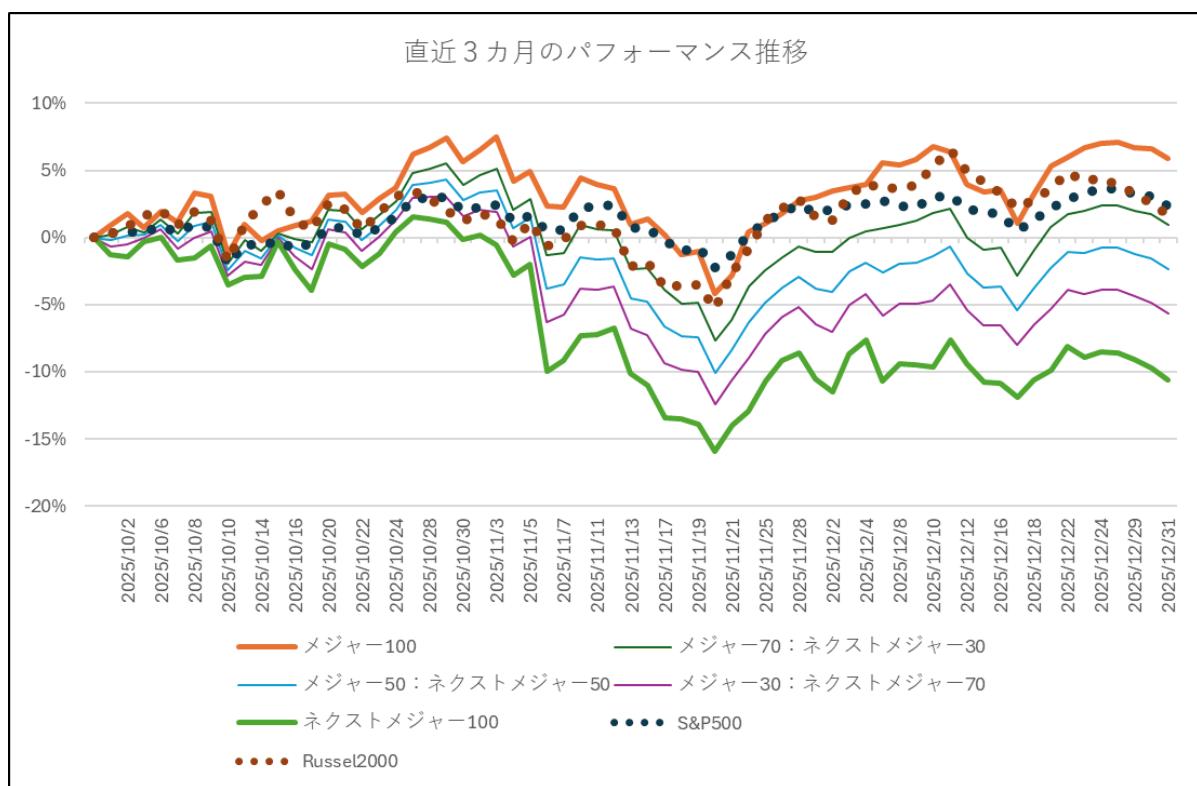
メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

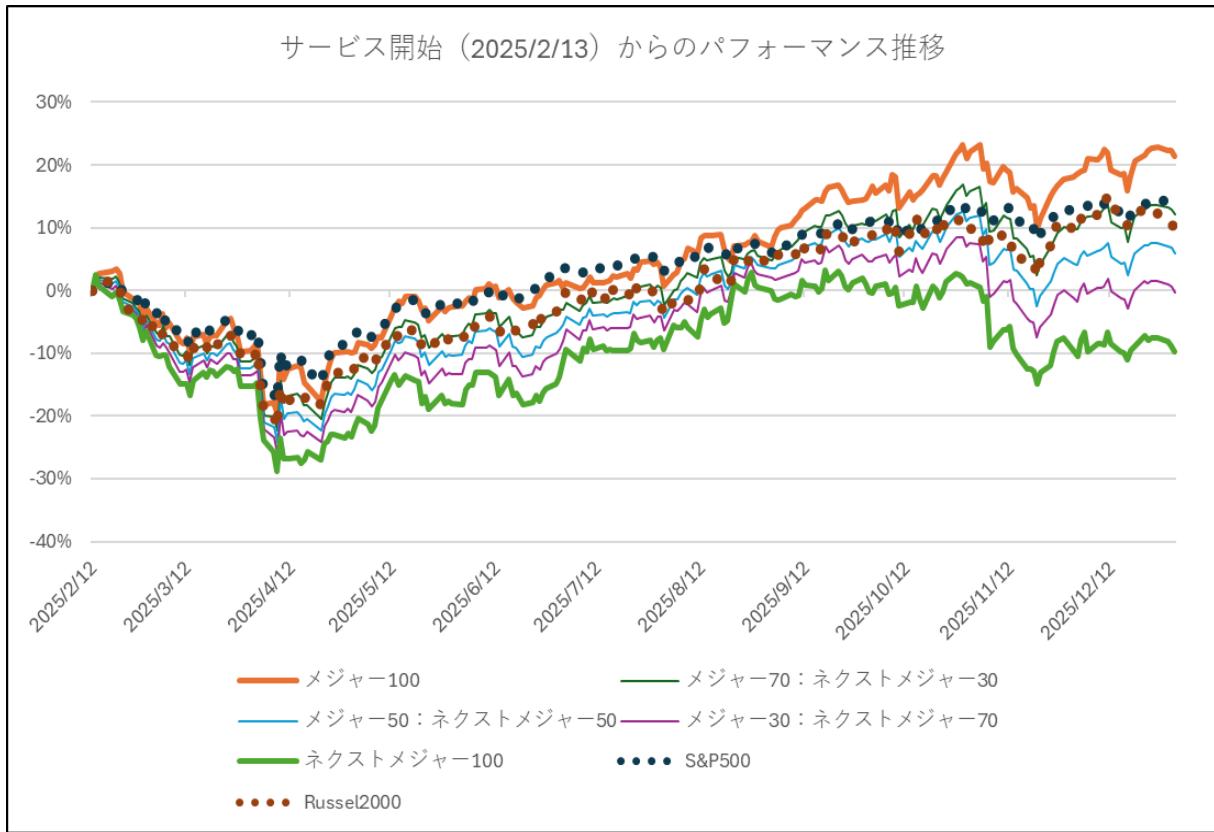
WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）で最も「月間成績」が良かった戦略は、「メジャー 100」でした。月間で+3.03%、対ベンチマーク超過収益では+3.08%となり、ベンチマークを大きくアウトパフォームする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年12月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年12月末までの運用実績です。

	過去1ヶ月	過去3ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	3.03%	5.87%	19.80%	-	21.35%	1.74	3.48
ネクストメジャー100	-2.27%	-10.65%	6.05%	-	-9.70%	0.42	0.63
S&P500	-0.05%	2.35%	10.32%	-	13.11%	1.75	3.30
Russel2000	-0.74%	1.74%	13.87%	-	9.89%	0.78	1.34

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

■ 12月の市況概況

➤ 米国市場

12月の米国市場は、堅調な実体経済とインフレ鈍化の共存を示す「ゴルディロックス（適温相場）」への期待が高まる一方、AI関連銘柄における選別色が強まる展開となりました。月半ばのFOMCでの追加利下げ決定に加え、月末に発表されたGDP改定値の大幅上方修正がソフトランディング観測を裏付け、ダウ平均およびS&P500は最高値を更新しました。一方で、オラクル決算を契機としたAIインフラ投資の収益性に対する警戒感から、ハイテク株は一時調整を余儀なくされるなど、ボラティリティの高い局面も見られました。

・第1週（12月1日～12月5日）／ダウ平均：+0.50% S&P 500：+0.31%、NASDAQ：+0.91%

週初は感謝祭明けの利益確定売りやISM製造業景況感指数の低下（48.2）を受け軟調に始まりました。しかし、ADP雇用統計が予想外のマイナス（3.2万人減）となったことで労働市場の軟化が意識され、FRBによる利下げ期待が高まりました。個別ではGoogleが「Gemini 3」を発表し、性能評価でOpenAIを凌駕したとの見方から株価が上昇する一方、競合するマイクロソフトやNVIDIAが売られるなど、生成AI開発競争の激化を反映した資金シフトが鮮明となりました。

・第2週（12月8日～12月12日）／ダウ平均：+1.05%、S&P 500：△0.63%、NASDAQ：△1.62%

最大の注目イベントであるFOMCにおいて、FRBは予想通り0.25%の追加利下げを決定しました。パウエル議長は労働市場の悪化リスクに配慮する姿勢を示しましたが、理事3名が反対票を投じるなど意見の対立も表面化しました。株式市場では、オラクルが決算で売上高未達に加えAI設備投資の積み増しを発表したことで株価が急落、「SaaSショック」としてハイテク株全体への売り圧力となりました。一方で、遅延していた9月PCEデフレーターなどのインフレ指標は落ちきを見せ、市場の安堵感を誘いました。

・第3週（12月15日～12月19日）／ダウ平均：△0.67%、S&P 500：+0.10%、NASDAQ：+0.48%

NY連銀のウィリアムズ総裁が現在の金融政策は「中立的な水準」へ移行したとの認識を示し、過度な引き締め懸念が後退しました。11月の小売売上高は自動車販売の不振などで予想を下回りましたが、住宅市場関連の指標は底堅く推移しました。個別では、マイクロン・テクノロジーが決算でAI向けメモリ（HBM）の好調さを背景に強気の見通しを示し、前週のAI投資懸念を払拭する形で半導体セクターの上昇を牽引しました。

・第4週（12月22日～12月26日）／ダウ平均：+1.11%、S&P 500：+1.40%、NASDAQ：+1.22%

政府閉鎖の影響で遅れて発表された7-9月期実質GDP改定値は年率+4.3%と市場予想を大幅に上回り、個人消費の強さが確認されました。これに加え、11月PCE価格指数が前年比+2.7%と予想を下回ったことで、インフレ沈静化と経済成長の両立が意識されました。マイクロン等の好決算も寄与し、主要3指数は揃って上昇。年末特有の「サンタクロース・ラリー」の様相を呈しました。

・第5週（12月29日～12月31日）／ダウ平均：△1.33%、S&P 500：△1.22%、NASDAQ：△1.49%

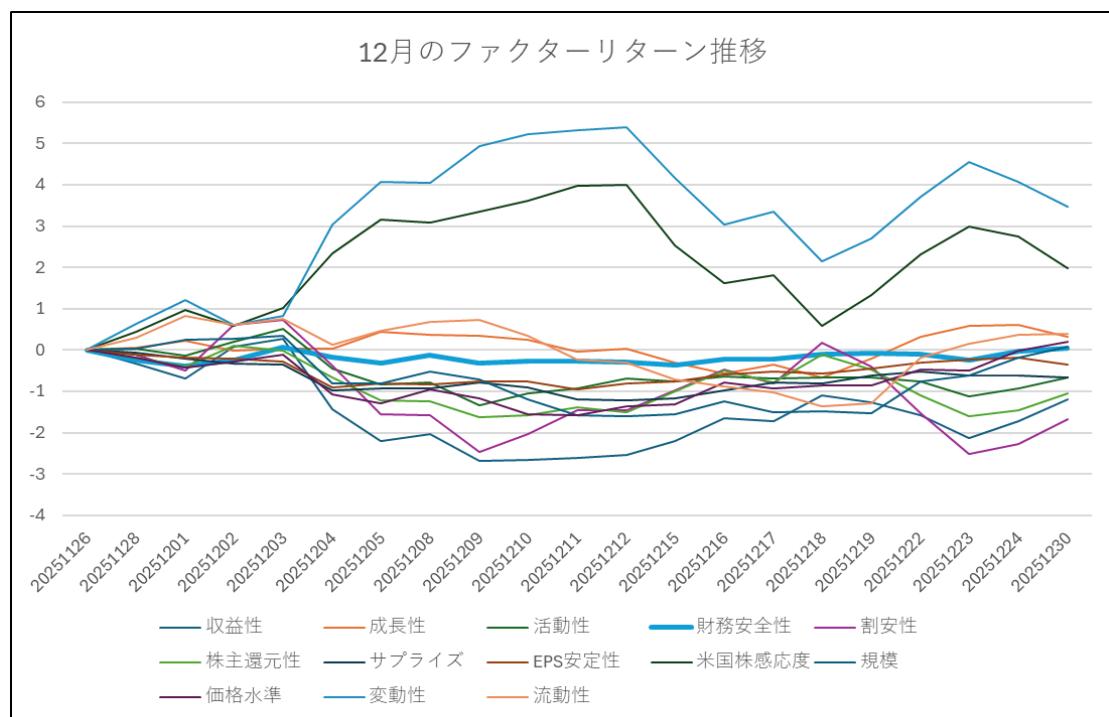
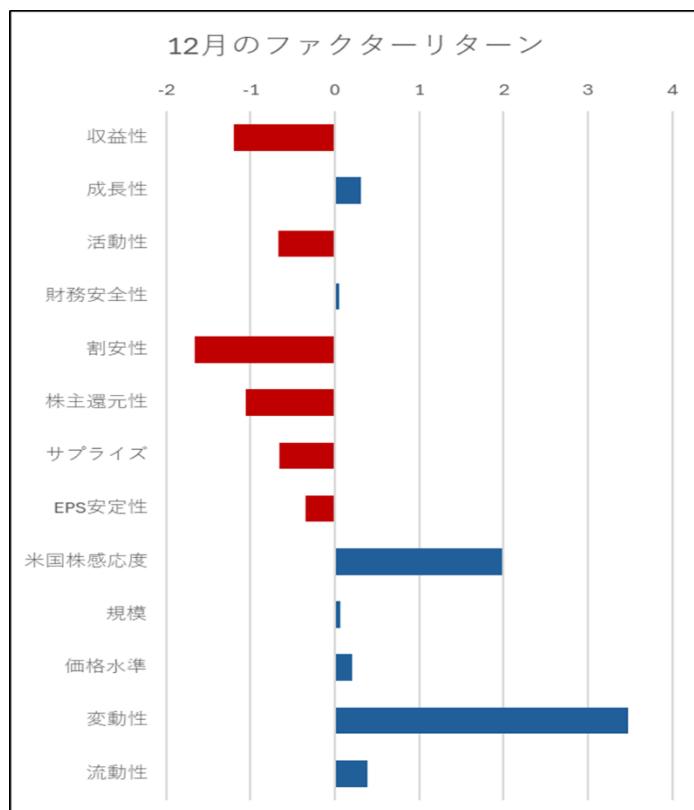
休暇ムードとなり、商いが閑散とするなか積極的な買いも見られず、主要3指数は揃って下落で月末を終えました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

12月は、ハイリスクのグロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、変動性ファクター・米国株感応度ファクター・成長性ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクターが大きくマイナスとなり、AI関連銘柄における選別色が強まる展開となるなか、高変動・ハイベータといったハイリスクのグロース株へ資金が向かったことが見て取れます。

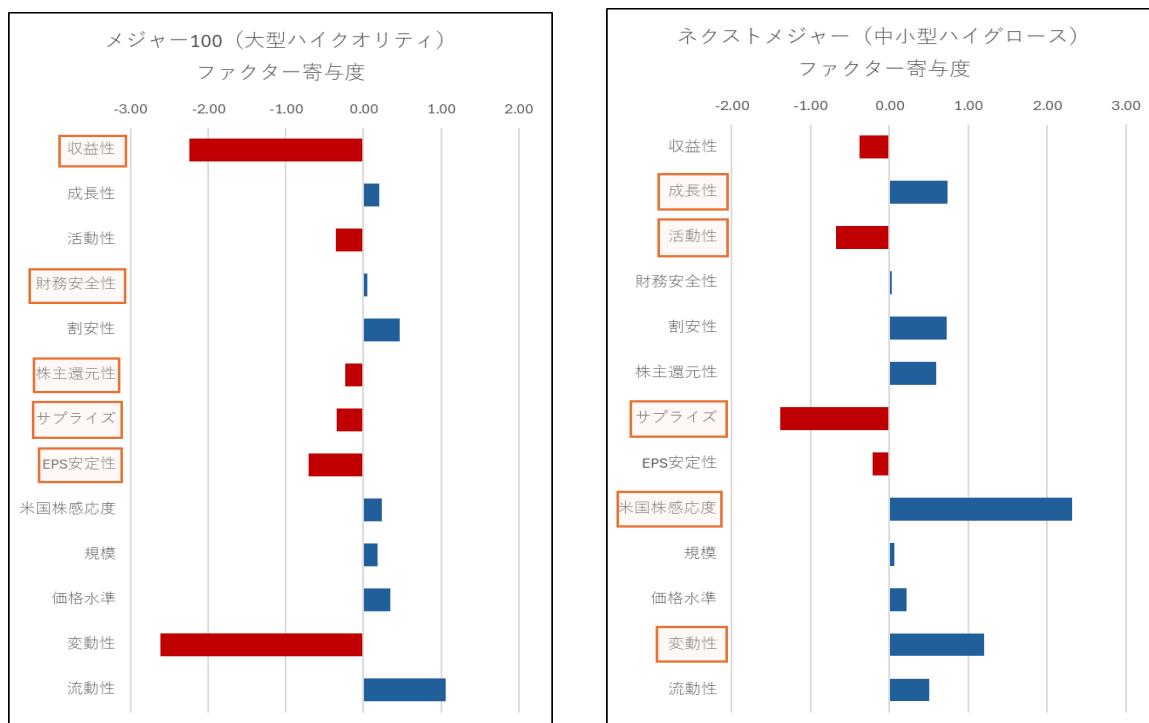


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）がご提供している5戦略は、3戦略がプラスとなり、3戦略がベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100ポートフォリオの特徴である「高収益、好業績（＝ポジティブ・サプライズ）、安定収益（＝EPS安定成長）」といったポートフォリオ特性はマイナスに寄与するも、「高成長、高米国株感応度（＝ハイベータ）、大型、高流動」特性が大きくプラスに寄与したことです。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴である「高成長、高米国株感応度（＝ハイベータ）、高変動性（＝ハイリスク）」といったポートフォリオ特性はプラスに寄与するも、「高活動性、好業績（＝ポジティブ・サプライズ）」といったハイ・グロース特性が大きく足を引っ張ったことです。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	MU	マイクロン・テクノロジー	5.9%	1.15%	
	RAMやNANDフラッシュメモリなどの半導体メモリを製造しています。高帯域幅メモリ（HBM）の需要がAIサーバー向けに爆発しており、生産能力の増強を急いでいます。2025年後半からメモリ価格の回復と高付加価値製品へのシフトにより、業績はV字回復を見せてています。AIブームの「第2の波（ハードウェアインフラ）」の恩恵を直接受ける銘柄として、多くの投資家から注目されています。				
2	PLTR	プランティア・テクノロジーズ	4.2%	1.13%	
	ビッグデータ解析プラットフォーム（Gotham, Foundry, AIP）の提供をしてもらいます。2025年に株価が約150%上昇するなど、驚異的な成長を遂げました。特に民間部門でのAIプラットフォーム（AIP）の導入が加速しており、米国コマーシャル部門の収益が急伸しています。S&P 500への採用も追い風となりました。ファンダメンタルズは極めて強力ですが、株価収益率（P/E）が非常に高いため、一部のアナリストは「割高」として慎重な見方を示しています。				
3	ADBE	アドビ	8.1%	0.65%	
	PhotoshopやIllustratorなどのクリエイティブソフト、およびデジタルマーケティング支援ツールを提供しています。生成AI「Firefly」の収益化が焦点です。直近の決算（2025年Q4）では市場予想を上回るEPSを記録し、2026年度も2桁成長の経常収益（ARR）を見込んでいます。				
4	DECK	デッカーズ・ブランド	2.7%	0.44%	
	HOKA（ホカ）やUGG（アグ）といった人気フットウェアブランドを展開しています。HOKAがランニング市場だけでなくライフスタイル市場でも躍進しており、国際市場での売上が急増しています。2025年は株価が一時低迷しましたが、直近の決算では予想を上回る売上を記録し、回復基調にあります。				
5	NVDA	エヌビディア	9.7%	0.37%	
	GPU（画像処理装置）の設計・開発。AI計算インフラの事実上の世界標準企業です。新世代チップ「Blackwell」の本格出荷が始まっており、データセンター向け収益は過去最高を更新し続けています。2025年も株価は堅調（約39%上昇）でしたが、あまりに期待値が高いため、決算ごとの反応が敏感になっています。しかし、AI需要の持続性に確信を持つ声が多く、2026年も市場を牽引するリーダーとしての地位は揺るがないと見られています。				

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
	CRMD	コーメディックス	3.2%	1.45%
1	生命を脅かす疾患に対する治療薬の開発を行っています。主力製品は、透析患者のカテーテル関連血流感染症（CRBSI）を予防するための抗菌ロック溶液「DefenCath」です。2025年を通じてDefenCathの採用が拡大し、通期売上高ガイダンスを上方修正するなど、商業化が軌道に乗っています。2025年に初の黒字化を達成し、2026年はさらなる収益成長が期待されています。多くのアナリストが「強い買い」を推奨しており、DefenCathの市場浸透によるキャッシュフローの改善が非常に高く評価されています。			
2	ALHC	アライメント・ヘルスケア	6.6%	0.92%
高齢者向けのメディケア・アドバンテージ（MA）計画を提供するテクノロジー主導型ヘルスケア・プラットフォームを提供しています。2026年度も「Best Insurance Company for Medicare Advantage」に選出されるなど、サービス品質で非常に高い評価を得ています。2025年Q3決算では予想を上回る収益を上げ、株価は年初来で大幅に上昇。2026年中の損益分岐点到達（通期黒字化）が目前に迫っています。成長率の高さと効率的な運営モデルが評価されており主要証券会社が目標株価を引き上げています。				
3	XERS	ゼリス・バイオファーマ・ホールディングス	4.8%	0.53%
自己投与可能な注射剤技術（XeriSol, XeriLact）を用いた特殊医薬品の開発を行っています。重症低血糖治療薬「Gvoke」やクッシング症候群治療薬「Recorlev」を展開しています。2025年に Recorlevの売上が前年比で倍増するなど、希少疾患ポートフォリオが好調です。競合他社の製品開発の遅れもあり、2026年初頭には販売体制をさらに強化する計画です。サバイバル・バイオテックから「収益性の高い特殊製薬プラットフォーム」への転換が成功しつつあると見なされており、2026年の黒字化達成に期待が集まっています。				
4	ESPR	エスペリオン・セラピューティクス	4.5%	0.51%
コレステロール低下薬「NEXLETOL（ネクスレトール）」および「NEXLIZET（ネクスリゼット）」の開発・販売を行っています。2025年に心血管リスク低減の適応拡大（ラベル拡大）が承認されたことで処方数が急増しました。2026年第1四半期からの「持続的な黒字化」を目標に掲げており、イスラエル市場などの新規承認も控えています。支出削減と売上成長のバランスが取れてきたことが好感されています。				
5	BCRX	バイオクリスト・ファーマシューティカルズ	4.6%	0.36%
希少疾患向けの経口薬開発。主力製品は遺伝性血管性浮腫（HAE）の予防薬「ORLADEYO（オーラデヨ）」。ORLADEYOの売上が年間10億ドルのピークセールスに向けて順調に推移しており、2025年に前倒しで通期黒字化とプラスのキャッシュフローを達成しました。2026年初頭にはAstria Therapeuticsの買収完了を予定しており、HAE治療のポートフォリオをさらに強化します。多くのアナリストが「買い」以上を継続しており、自力での黒字化達成により、財務リスクが大幅に低下したと評価されています。				

■ Wealth Growth 戰略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色2：ニューヨーク証券取引所及びNASDAQに上場する約5,000銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

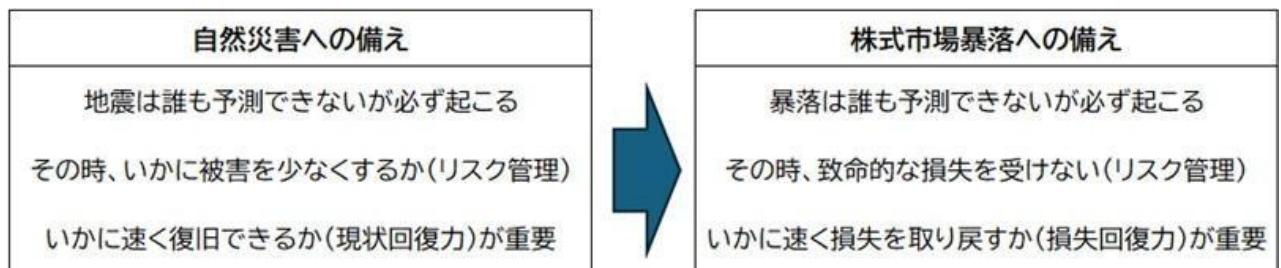
特色3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはS & P500±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。

計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株（Next Major）

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

ファクター	代表的ファクター構成指標
1 収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2 成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3 活動性	総資本回転率、等
4 財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5 割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6 株主還元性	配当利回り、等
7 サプライズ	経常利益修正率、等
8 EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9 米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10 規模	上場時価総額、等
11 価格水準	株価、等
12 膨落率	60日膨落率、等
13 変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14 流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄とっています
- ② 1銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AIによる最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年1月8日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH(ウェルスグロース)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- ・対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・入出金に係る手続き
- ・投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- ・サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

[投資一任契約の媒介業者]



「トラストグローバル証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号
加入協会／ 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

[口座管理機関]



株式会社スマートプラス
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号
加入協会／ 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会